

I-3 子ども同士のトラブル・・・どう解決する？

ワーク1

- お子さんの最近あった子ども同士のトラブルを思い出し、気楽に出し合いましょう。

ワーク2

【エピソード】

校庭でのできごと。一輪車に乗っていた茂くんが、そこに一輪車を置いたままトイレに行きました。戻ってみると、弥太郎くんがその一輪車に乗っていました。茂くんは「返せ！」と言いましたが、弥太郎くんは「ボクが今使っているんだよ！」と言い、返してくれません。一輪車の取り合いになり、茂くんは泣いてしまいました。それを見ていた弥太郎くんのお母さんは、「茂くんが乗っていたんだから、返しなさい！」と怒りました。近くには、茂くんのお母さんもいました。

- 茂くんと弥太郎くんと茂くんのお母さんの気持ちについて話し合いましょう。
- 弥太郎くんのお母さんだったら何というか話し合いましょう。
- 茂くんのお母さんだったらどうするか話し合いましょう。

資料

トラブルの経験は次の段階へのステップです。

3～4歳頃になると、友達と一緒に遊びたがるようになります。物の取り合いからケンカになったり、遊びの中で互いの主張をぶつけ合ったりするようになります。しかし、こうしたトラブルの中で、子どもたちは、順番に使ったり、きまりを守ったり、また、つらい思いをしながら相手の主張を受け入れたり、自分の主張を受け入れてもらったりする経験を積み重ねていきます。また、その後の集団で活発に遊ぶ姿につながっていきます。

大人は、子どもたちが自分たちでトラブルを解決できるように、必要な援助をしていくことが大切です。

(厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年)

ワーク3

- 気付いたことや子ども同士のトラブル場面でこれから自分にできることを出し合いましょう。

ふりかえり

- 感想を発表し合いましょう。

I-3

子ども同士のトラブル・・・どう解決する？

対象：幼児期～学童期の子どもをもつ保護者
時間：80分程度

ねらい	子どもの間でトラブルが生じる理由を理解する。 子どものトラブルへのかかわり方の基本を学ぶ。		
実施のポイント (評価など)	○子どもに共感しながら関わることの大切さを理解することができる。		
事前準備	○名札 ○筆記用具		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導 入 10分	ワークの趣旨説明 ○名札づくり ○自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3～4人のグループをつくる。 ・ 自己紹介では、氏名と呼んでほしい名前、今日参加した理由などを互いに話すことでリラックスできるようにする。 	名札
展 開 10分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども同士のトラブルを思い出す。 ・ グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 最近の自分の子どものトラブルを思い出し、幼児期～学童期の子どもの特徴を共有することをねらいとする。 ・ 話しやすい雰囲気にする。 	
25分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・ エピソードを読む。 ・ グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 子どもに共感しながら関わることの大切さに気付くことをねらいとする。 ・ 子どもたちと慎太郎くんのお母さんの気持はどうだったのか、お母さんたちはどう関わればよかったのかについてグループで話し合う。 	
30分	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・ グループで話し合う。 ・ グループ内で出た意見を発表し合う。 ・ みんなで育てるために何が出来るか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 気付きとこれから自分にできることを共有することをねらいとする。 ・ グループで気付いたことや自分にできることを話し合うことで、互いに知恵を得られるようにする。 ・ まず「子どもにとってどうか」から考えることを大切にすることを押える。 	
まとめ 5分	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を記入する。 ・ 発表し合い、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かに発表してもらい、全体で共有する。 	